

## 着任の挨拶



小児科 部長 山西 慎吾

前任の早川部長から引き継ぎ、令和元年10月に日本医科大学より参り、着任しました山西慎吾と申します。小児科での専門領域はアレルギー、膠原病です。日本医科大学卒業ですが、中学、高校は早稲田中、高等学校で、東京山手メディカルセンターは母校に近く非常に懐かしく感じています。

現在、東京山手メディカルセンターの小児科は常勤医師として自分と赤尾医師、上田医師の3人で、そのほか専門性の異なる非常勤医師を日本医科大学小児科医局より派遣していただき、複数の専門領域（内分泌、代謝疾患、神経疾患、循環器疾患、アレルギー疾患）における診療が行える体制になっております。午前是一般外来診療、午後は予防接種および乳児健診で、原則予約制となっております。午後は予約されている方が優先になりますが、できる限り診察したいと思っておりますので、午後の診察を希望される場合は、まずお電話をしていただくようお願いいたします。



### 乳幼児期のワクチンの効果



小児科では日常診療で多くのお子様にワクチン接種を行っております。ワクチンで予防できる感染症のことを **Vaccine Preventable Diseases (VPD)** と呼び、20ほどあります。これらの感染症はワクチンで予防するのが感染症対策の基本となっております。ワクチンの効果を知ることでその重要性を理解していただきたいのですが、紙面の都合があり、ここでは1歳までに受けるワクチンをまとめて示します。

1) ヒブ (Hib) ワクチン：インフルエンザ菌（インフルエンザウイルスとは異なります）の中でも乳幼児に侵襲性感染症（細菌性髄膜炎や敗血症）を引き起こすインフルエンザ菌 b 型 (Hemophilus influenzae type b; Hib) に対するワクチンで、ワクチンにより侵襲性感染症がほぼ 100% 予防できます。

2) 肺炎球菌ワクチン：肺炎球菌は上気道の常在菌で 90 以上の血清型に分類され、そのうち 13 種類の血清型に対するワクチンです。ワクチンに含まれる血清型の侵襲性感染症の頻度を減少させています。

\*乳幼児の細菌性髄膜炎の起炎菌のうち Hib と肺炎球菌が 80% を占めていましたが、ワクチンの導入により細菌性髄膜炎の罹患数が激減しておりワクチンの効果を実感できます。

3) B 型肝炎ワクチン：乳幼児期の B 型肝炎ウイルス (HBV) 感染は父子感染や保育園での水平感染により起こり、感染すると大部分が持続感染となります。乳児期からの HBV 持続感染者は若年で肝がんを含む慢性肝臓病へ進行する率が高く、HBV ワクチンは慢性肝臓病を予防します。

4) ロタウイルスワクチン：ロタウイルスは、乳幼児に感染すると非常に強い下痢となり短時間で重度の脱水症を引き起こす病原体です。また、脳炎の原因となる感染症の中ではインフルエンザ、ヒトヘルペスウイルス 6 (突発性発疹) に次いで 3 番目に多いとされています。ワクチンは重症の胃腸炎、脳炎の発症を予防します。

5) 4 種混合ワクチン：破傷風菌、百日咳菌、ジフテリア菌、ポリオウイルスの 4 つの病原体に対するワクチンです。いずれの感染症も発症すると致命的になったり、脳性麻痺など後遺症を残したりする可能性があり、ワクチンはこれらの感染を予防します。

6) BCG ワクチン：結核菌の弱毒株である BCG を用いた結核菌に対するワクチンで、乳幼児の結核性髄膜炎や粟粒結核などの重症な結核感染症を予防します。

**接種できるワクチンは全て重要**（定期接種と任意接種では重要性に差はありません）です。小児科では多数のワクチンを効率よく接種できるように案内しておりますので、お気軽にご相談ください。